すくらむ

東大阪こども市政だより
第8号　平成20年12月
（2008年）

発行 東大阪市役所 経営企画部 広報広聴室 広報課

〒577-8521 東大阪市荒本北1丁目1番1号
TEL06（4309）3102
FAX06（4309）3821
ホームページ
http://www.city.higashiosaka.osaka.jp/

市内のなかまたち　小学校1年生 4,631人　2年生 4,587人　3年生 4,776人　4年生 4,916人　5年生 4,892人　6年生 4,806人　（平成20年5月1日現在）

まいどくん宇宙へ

中小企業で働く人たちがつくった東大阪発の人工衛星「まいど1号」を乗せたロケットが、いよいよ宇宙へ打ち上げられます。

●打ち上げ日　来年1月21日(水)
●打ち上げ場所　種子島宇宙センター
午後0時54分～1時16分
※気象条件などで打ち上げ日や時間が延長する場合があります。

SOHLA-1（まいど1号）

人工衛星「まいど1号」は、一辺が約50㎝の立方体で重さが約50kg。1日5回～6回ぐらい日本の上空を通って、雷の観測をするんだ。

今、地球の周りを回っている人工衛星は3,000個以上もあって、テレビ番組を中継したり、気象情報を集めたりしているんだよ。

まいど1号というのは愛称で、正式な名前は「SOHLA－1」。「まいど」にしたのは大阪人のあいさつだから。宇宙に行ったときに〝まいど、ってね。

夢を乗せて！まいど1号いよいよ打ち上げ

知恵と工夫で夢を実現
中小企業の底力

東大阪宇宙開発協同組合（SOHLA）の棚橋秀行さん

平成14年12月、中小企業で働く人たちが集まって「技術力を結集して夢を打ち上げよう」と、東大阪宇宙開発協同組合（SOHLA）をつくり、人工衛星の開発がスタートしました。

私の会社は、ふだん電気工事などをしていますが、人工衛星の開発では、バッテリーユニットという電池をつくりました。

組みたて作業

人工衛星は、さまざまな企業がつくった部品が集まってできているんですよ。

ほかの会社も人工衛星の部品をつくるのは初めてのことで苦労しましたが、それぞれの技術を最大限にいかして、担当する部品が宇宙でも問題なく動くよう、何度も試験を積み重ねてきました。

そして今年3月、企業や大学など多くの人たちの協力もあって、ついに人工衛星「まいど1号」が完成しました。

「苦しいときこそ夢をもたなアカン！」と立ち上がった職人集団の夢の実現から、モノづくりの魅力やおもしろさを知ってもらい、若者が集まる元気なまちにしていきたいですね。

R100　古紙配合率100％再生紙を使用しています

宇宙から雷を観測

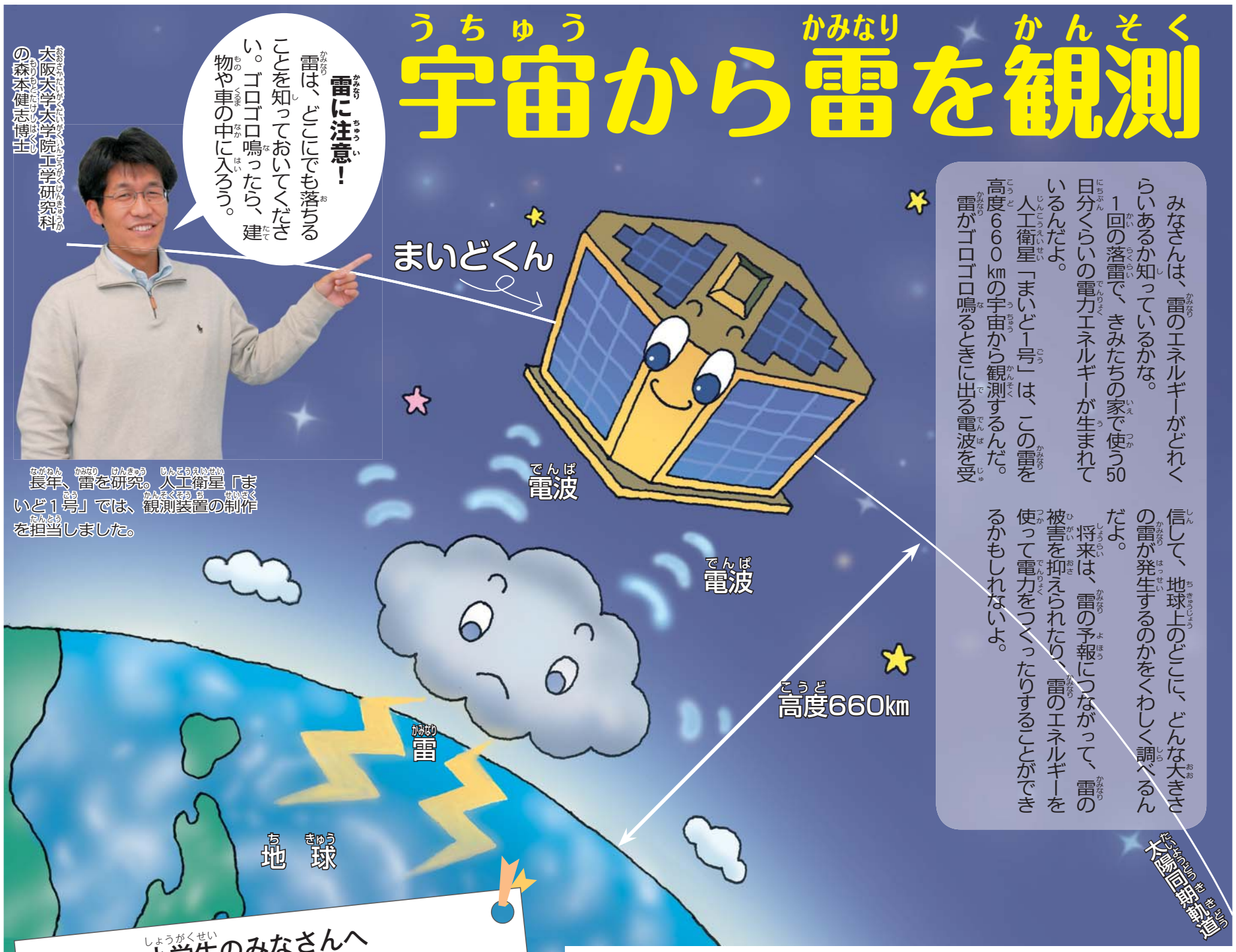
みなさんは、雷のエネルギーがどれくらいあるか知っているかな。

1回の落雷で、きみたちの家で使う50日分くらいの電力エネルギーが生まれているんだよ。

人工衛星「まいど1号」は、この雷を高度660kmの宇宙から観測するんだ。雷がゴロゴロ鳴るときに出る電波を受信して、地球上のどこに、どんな大きさの雷が発生するのかをくわしく調べるんだよ。

将来は、雷の予報につながって、雷の被害を抑えられたり、雷のエネルギーを使って電力をつくったりすることができるかもしれないよ。

大阪市都島区



雷に注意！
雷は、どこにでも落ちることを知っておいてください。ゴロゴロ鳴ったら、建物や車の中に入ろう。

大阪大学大学院工学研究科の森本健志博士

長年、雷を研究。人工衛星「まいど1号」では、観測装置の制作を担当しました。

小学生のみなさんへ

まちを活気づけ、「若い世代へモノづくりを伝えたい！」と7年の歳月をかけ人工衛星打ち上げ計画を進めてきました。限りない可能性をもつ子どもたちに、夢は必ず実現するということを知ってもらい、自分の夢や目標に向かって挑戦してほしいですね。

—東大阪宇宙開発協同組合（SOHLA）一同

おじゃましま～す

～八戸の里東小の巻～
～石切小の巻～

身を守るために 護身術で不審者を撃退

不審者から身を守ろうと11月23日、八戸の里東小学校で護身術教室が開かれたよ。

まず、バルセロナオリンピックにテコンドー日本代表選手として出場した畠山美奈子さんが、児童約470人の前でテコンドーを披露したんだ。

テコンドーとは韓国・朝鮮で生まれた武術の一つで、板割りや頭の上のリンゴを蹴るなど、迫力ある演技に児童たちから大きな拍手と歓声が上がっていたよ。

このあと、児童たちは不審者に前から腕を捕まえられたときや後ろから抱きつかれたときの護身術を教わり、身を守る方法を学んだよ（写真上）。

獣医体験で命の大切さを実感

12月1日、石切小学校に3人の獣医師が訪れ、5・6年生の飼育委員約40人にうさぎの育て方などの話をしてくれたよ。

動物の飼育を通して命の大切さを学んでもらおうと、獣医師の人たちは市内の学校へ行ってお話をしているんだって。

飼育委員たちは、「うさぎの耳が長いのは体温調節をするため」などの説明を聞いたあと、実際にうさぎを触り、正しい抱き方や聴診器を使って心臓音を聴いたんだ（写真右）。

飼育委員長の松野雄樹さんは、「うさぎの心臓音は速かったけど、リズムがあった。小さくても生きてるってことを実感しました」と話していたよ。

トピックス

中国楽器で異文化交流 盾津ふれあいフェスティバル

11月16日、盾津中学校で「盾津ふれあいフェスティバル」が開催されました。

この行事は、盾津中学校校区に中国などの外国人が多く住んでいることから、異文化への理解を深め、活気ある地域づくりをめざそうと、毎年行われているものです。

この催しには、鴻池東小学校の児童52人が参加。中国の民族楽器「二胡」や「笛子」などを使って演奏をしました（写真）。

演奏に使った楽器は、中国の楽器に触れることで、異文化への理解を深めてもらおうと、東大阪中央ロータリークラブから鴻池東小学校に贈られたものです。

児童たちは演奏のほかにも中国語と日本語を交えた合唱なども披露。観客から大きな拍手が送られていました。